

令和 5 年度 学校関係者評価報告書

令和 6 年 3 月
獨協医科大学附属看護専門学校三郷校

1. 領域別評価

領域	学校関係者からの意見・要望・評価等
I 理念・目的・期待する卒業生像	組織のベクトルが一定方向に定まることが重要であり、そのためには、組織目標と個人目標を連鎖させることが必須です。 教員間で乖離がない状況にすることが最重要課題です。時間的な制約がありますが、個人目標の進捗状況を管理するために、中間申告の義務化等を検討してください。
II 学校運営	教員が最高のパフォーマンスを発揮できるよう組織運営に関する意識の統一が必要です。また、授業評価の回答率を高めるための工夫と、学生の意向を学校運営に反映させるための仕組みづくりも必要だと思います。放送大学との連携協力により、ダブルスクールができるという取り組みは評価できます。
III 教育活動	教育理念に基づき教育活動が展開されていると思います。技術教育のシステムに期待します。 看護師免許を取得するために入学しているのだから、「資格・免許の取得の指導体制」の自己評価は5でなければならないと思います。
IV 学習成果	卒業生の9割が関連病院へ就職するのであれば、教育連携会議で課題を共有するだけではなく、卒業生の状況や成長、課題を学校側も共有できるシステムを構築することで学生のニーズを知り、学生に関わることができると思います。国家試験の合格率が低下していますが、国家試験合格率100%は絶対目標として欲しいです。
V 学生支援	学生への支援は学生の兆候を知ることが大切です。退学率が0%であることは、対策や早急な対応ができていることの結果だと思います。担任制を廃止し、教員全体で支援するという試みの今後の評価が楽しみです。学生の確保、学生間のコミュニケーションの機会確保のために学生寮の設置を検討してほしい。
VI 教育環境	教育環境は申し分ないと思いますが、安全や災害に対する体制は十分とは言えないと思います。マニュアルの作成や体制の整備が必要だと思います。災害時に看護学生として、近隣の病院や施設を支援するという試みがあってもよいと思います。インターンシップや学外実習の施設開拓も急務だと思います。
VII 学生の募集と受け入れ	学生獲得に向けては、学校のアピール強化や入学した学生が何によって本校を知ったか等を分析することで、広報活動を検討したり、新たな取り組みを発見することができると思います。マッチングを数値化することで、御校の魅力を再発見することができるのではないのでしょうか。
VIII 財務	教育目標を踏まえ、計画的に必要な設備や備品の整備が行われています。また、外部監査が定期的実施されています。 80人規模の講義室が必要な状況であれば、教育環境にも影響するので、早急な改善が必要だと思います。
IX 法令等の遵守	法令等の遵守については問題はないと思いますが、学校関係者評価委員会において、学校側が抱えている重要課題に対する意見交換に時間を割いてもよいのではないかと思います。
X 社会貢献・地域貢献	UR都市機構との地域共創事業「みんなで健康寿命を延ばそう！」プロジェクトの実施は評価できます。国際交流の機会がないようですが、地域交流や学生・教員によるボランティア活動が国際交流に繋がってくとと思います。

2. 総括

領域評価の項目が見直されたことでより具体的に評価できるようになったと思います。数ある評価項目の中で、「これだけは」という項目の評価を高めることで御校の特色が出てくるのではないのでしょうか。3年未満の教員が半数を占めている現状では、情報共有やシステム体制の構築が急務となりますが、学生のニーズに合わせた教育体制の強化を期待します。

これまで沢山の看護師を社会に送り出しています。御校の地域への貢献度はとても大きいと思います。ご苦労も多いと思いますが期待も大きいです。今後も、高度急性期医療に携わる看護師の育成にご尽力ください。